

再質問

村長の答弁には、後程質問するとして、最初に各課長達からの答弁については、見通しの明るいものと、漠然としているものがあり、個別に再度伺いたいと思います。

1、防災行政について

これは、昨年9月の質問であり、今年の9月の防災訓練時も、何ら変化はありませんでした。昨年と総務課長は変わっていますが、防災は最も緊急な課題です。再度決意のほどを伺います。

2、「里山庭園」構想について

森林整備という点では、林地台帳の整備は必要条件ですが、地籍調査さえも進展していない実情を考えれば、担当課として、何をいつまでに達成するか、などの計画性と予算及び人員の確保を具体化すべきです。これも回答求めます。

3、保護犬・迷い犬対策について

これについては、他に誇る殺処分「0」の実績から、さらに一步進んで動物愛護センターの設置によるアニマルセラピーなどの新しい山中湖の魅力を出すよう求めています。

如何でしょうか？

4、村民の健康管理と「健康立村」構想について

村長は私に健康立村の計画書を要求しました。その一部を既に届けていますが、現場との調整が不十分のようです。その場しのぎの対応ではなく、「健康立村の宣言」をするなど、真剣に取り組んでほしいと思います。既に多方面からの協力の意志表明も受けています。如何ですか？

5、交通弱者への助け合い対策について

これは、法律的な課題が多いと思いますが、チーム山中湖や新しい機構作りの中で、相互協力の住民の意識改革を先行すべきだと思いますが。如何ですか？

6、小中学生の「里山留学制度」について

早速の先進地の調査には敬意を表します。しかし、少子化の問題は緊急を要し、他の先進地より当村の条件は数段上だと思っています。「里山留学制度」の実現を加速していただきたいと思いますが如何ですか？

7、入札制度改革について

これは、制度改革であり、98%を越す高止まりの落札率の

改善するには、早急に予定価格の事前公表の取りやめ、さらに随意契約の複数見積もりによる、競争原理の徹底を行う決意の問題であり、貴重な税金の無駄遣い防止の意味でも、村長や契約担当業務者の、強い決意を再度伺います。

これは、各担当課長にお願いします。

さて、改めて、最初の村長の答弁についてですが、私は、「融和」に対する具体的な内容を質問したのですが、村長は、「対立ではない」「4年前と変わっていない」といだけの答弁で、人間的体温の感じられない内容に全く失望しています。

考えは変わっていないでしょうが、実態は村長自身が対立的であり、また選挙後の村内は、僅か0.1%での勝利におごる50.1%の勝ち組と、希望を失った49.9%の負け組に真っ二つに割れています。この状態を、まさに「融和と団結」に持っていくのが、あなたの使命ではないのでしょうか？

その意味では、今までとは変わってもらわなければならないのです。

そこで、もう一度私の考えと、今後の村長の姿勢について具体的提

案をしますので、くれぐれも冷静にお聞きいただき、誠意ある回答を願います。

民主主義の規定によれば、山中湖村の主人は6000名の村民です。また、民主主義の基本は、「少数意見の尊重」にあります。

したがって、村長職とは、主人である6000名の村民に対し、どこまでも公平にそして公正に奉仕しなければならない、役職であります。

その重大な役職に僅か1%の差で就任することの緊張感と謙虚さを。しっかりと持つべきであります。

しかも、不信任数である49.9%は限りなく半数に近く、もはや少数とは言えません。そうであれば、なおさら彼らの、日常の悩み、不安、そして将来への提案や希望など具体的心情について、真剣に耳を傾ける機会を設けるべきだと思います。

あなたを支持した村民か否かではなく、最初は少人数でもよいから、村民との「車座の対話集会」を数多く重ね、率直に村民とのコミュニケーションはかり、信頼関係や村政参加を求めるべきであります。

あなたは、1期目は政策の種を撒きで、二期目はそれを花開かせる

のだといたしました。

でも、種が育ち良い花を開かせるには、土壌を豊かにしなければなりません。土壌である6000名の村民の心を何よりも豊かにすることが大切です。

信頼関係といえは、あなたの村政のエンジン役である職員との信頼の構築も課題です。

あなたに対する職員の気持ちを代弁すると、「職員の意見をよく聞いてほしい」、「思い付きではない計画性・継続性のある行動をしてほしい」、「公平な判断力と、的確でしかも迅速な決断力を発揮してほしい」を求めています。

職員は、幹部職になれば約40年近い経験があり村政全般を経験した「行政の職人」といえます。

先日、東大工学系卒の方が講演の中で、日本の高度経済成長を支え日本の技術が世界的に評価されたのは、職人を育てることに力を注いだからだ、と言われました。

学者や研究者が、新しいアイデアを考え精密な図面を書いても、それを作り出す職人が優秀でない限り、世の中に喜ばれ認められる製

品は生まれません。

終戦直後「メイドイン・ジャパン」は、二流品、三流品の代名詞でした。

そこで、国は伝統技術を含む職人の育成に全力を注ぎ、今や新幹線や宇宙衛星をはじめ天体観測機器等において人類に貢献する「モノづくり技術大国」になりました。

村政においても、質の高い行政サービスを生み出すためには、職員の育成と共に、何よりも村政のビジョンを描く村長と、それを実現する職人である職員との絶対的信頼関係が必要不可欠です。

それには、あなたが最も苦手とする「職員とのコミュニケーション」を深めることです。そして、職員一人一人を「行政の職人」として、その尊厳を認め、上から目線ではなく、相手の真意を聞き取る人間味ある対話を始めてほしいと思います。

必要なのはトップダウンではなくボトムアップで、いろんな職員たちが自分の分野で能力を発揮して、互いに切磋琢磨することで、新しい行政活力が生まれるはずです。

この職員との対話は、四年前もあなたに提案しましたが実行されず、職員との信頼関係どころか、不当な懲罰負担金の要請のような政

治的パフォーマンスによる、職員の不信感さえ深めてしまいました。

そこで質問です。二期目では、村民との膝を交えた「車座的対話集会」の実現や、職員との個別なコミュニケーションによる温かい信頼構築への行動をされるか否かについて、心ある明確な回答を求めます。